

温泉利用状況報告書作成要領

第1 温泉利用状況報告書（個表）

1 総括

本報告書は、様式1により、毎年3月31日現在の温泉の状況を温泉採取者、未利用のゆう出路（源泉）の所有者及び温泉を利用する施設の管理者に記入してもらうこと。

提出された本報告書は、保健所に保管すること。

2 報告対象者及び記載範囲等

(1) 温泉採取者及び未利用のゆう出路（源泉）の所有者

報告書は、ゆう出路ごとに作成し、「ゆう出路（源泉）の状況」に記載すること。

(2) 温泉を利用する施設の管理者（以下「施設管理者」という。）

ア 報告書は、利用する施設（公衆浴場、旅館等）ごとに作成すること。

イ 「ゆう出路（源泉）の状況」のうちの「ゆう出路の場所」及び「泉質」並びに「温泉利用施設の状況」に記載すること。

(3) 温泉採取者が施設管理者を兼ねている場合は、全項目を記載すること。

3 作成上の留意事項

(1) 温泉採取者が不明の場合は、源泉の状況を確認の上、保健所において作成することとし、報告書の右上に「採取者不明により現状調査」と朱書きすること。

なお、所在地が特定できないなど、ゆう出路状況が不明な源泉については、温泉採取者等不明ゆう出路一覧表（様式5）に記載し、添付すること。

(2) 利用許可対象外施設のため管理者が把握できない場合等は、温泉採取者等から報告を徴取することとし、欄外右上に「温泉採取者による報告」と記載すること。

(3) 報告内容については、温泉台帳との整合性に注意すること。特に、「ゆう出状況」、「ゆう出量」及び「利用量」の各欄は、長期間にわたり同じ内容が記載され、現状と著しく相違していると思われるものが見受けられるので確認すること。

(4) 記載上の注意事項として、別紙「温泉利用状況報告書（個表）の記載上の注意事項（報告者用）」のとおりとし、個表の記載例と合わせて温泉採取者等へ配布すること。

第2 温泉利用状況報告書（集計表）

1 総括

(1) 集計に当たっては、各様式間の整合性に十分注意すること。

(2) 作成に当たっては、前年度の報告内容との整合性に十分注意すること。

なお、ゆう出量やゆう出温度が前年度と比較して著しく変化している場合は、内容を確認の上、理由を付記すること。

(3) 管内のゆう出路（源泉）数の確認は次の式によることとし、温泉台帳と確認すること。

※	（源泉数）	=	（浴用・飲用利用分）	+	（他目的利用分）	-	（他目的利用のうち浴用・飲用にも利用）
	（実数）	=	（様式2）		（様式3）		（様式3の内数）

(4) 各表中の「自噴」には、自然ゆう出泉を含むものとする。

(5) 報告書は、各様式ファイルにより作成することとし、入力後のファイルを食品衛生課へメールで送付すること。

2 温泉利用状況報告書（浴用・飲用利用分）

(1) 作成上の留意事項

ア 本報告書（様式2）は、採取した温泉を浴用又は飲用に利用しているゆう出路について、温泉地ごとに区分して記載すること。

なお、その他の目的にも併用（他目的利用）しているゆう出路については、様式3にも記載すること。

イ 未利用のゆう出路については、未利用となった直近（利用したことがない場合は、利用計画当初）の利用目的により、様式2又は3のどちらかに区分して記載すること。

ウ 採取者又は住所地が不明のゆう出路は、できる限り現状を確認すること。

現状不明の場合には、当該ゆう出路を「未利用源泉」とし、温度、ゆう出量は「不明」として記載するとともに、温泉採取者等不明ゆう出路一覧表（様式5）に記載し、添付すること。

(2) 記載上の注意事項

ア 「温泉地名」

通称・一般的に使用されている名称を記載すること。

イ 「源泉数」

ゆう出路の現状に応じて、次のとおり区分すること。

(ア) 「利用（A）」又は「未利用（B）」の区分

a 「利用（A）」のうち「自噴」とは、動力装置を使用せず利用しているゆう出路（自然ゆう出泉を含むが、その場合は内数として、カッコ書で併記すること。）

b 「利用（A）」のうち「動力」とは、動力装置を使用して利用しているゆう出路

c 「未利用（B）」のうち「自噴」とは、現に温泉を利用し得る状態にありながら利用されていないゆう出路（自然ゆう出泉を含むが、その場合は内数として、カッコ書で併記すること。）

d 「未利用（B）」のうち「動力」とは動力装置を可動すれば利用可能なゆう出路

(イ) 「温度別」の区分

「利用源泉」については上段に、「未利用源泉」については下段に記載すること。

ウ 「ゆう出量」

「源泉数」の「利用」又は「未利用」の区別に応じて、該当するゆう出路のゆう出量を記載すること。ただし、他の目的にも併用（他目的利用）されている場合は、浴用・飲用に利用されている分のみを記載すること。

なお、動力装置を使用しているゆう出路にあつては、許可申請時の揚水量ではなく、現在ゆう出している量を、小数点以下を四捨五入して記載すること。

また、「未利用」のうち「動力」は、動力により揚水が可能な量をカッコ書で併記すること。

エ 「宿泊施設数」及び「温泉利用公衆浴場施設数」

様式4との整合性に注意すること。

なお、様式2において、「※温泉利用公衆浴場数」の内訳を計上して下さい。

オ 「主たる泉質名」

新泉質名で記載すること。

カ 「公園内にある温泉地」

当該温泉地が国立公園、国定公園又は道立自然公園内にある場合は、それぞれ該当する欄に○を記載すること。

3 温泉利用状況報告書（他目的利用分）

(1) 作成上の留意事項

ア 本報告書（様式3）は、採取した温泉を浴用又は飲用以外の目的に利用（他目的利用）しているゆう出路のほか、浴用・飲用とその他の目的の両方に併用しているゆう出路について、温泉地ごとに区分して記載すること。

なお、浴用・飲用にも併用しているゆう出路については、様式2にも記載すること。

イ 未利用のゆう出路については、未利用となった直近（利用したことがない場合は、利用計画当初）の利用目的により、様式2又は様式3のどちらかに区分して記載すること。

ウ 採取者又は住所地が不明のゆう出路は、できる限り状況を確認すること。

現状不明の場合には、当該ゆう出路を「未利用源泉」とし、温度、ゆう出量は「不明」で計上するとともに、温泉採取者等不明ゆう出路一覧表（様式5）に記載し、添付すること。

(2) 記載上の注意事項

ア 「温泉地名」

通称・一般的に使用されている名称を記載すること。

イ 「主たる用途」

ゆう出路を、その用途ごとに区分して以降の欄に記載すること。

また、用途を特定できないゆう出路にあつては、その用途を列記しても構わないこと。

ウ 「源泉数」

様式2に準じて記載するほか、次の点に注意すること。

(ア) 「浴・飲用にも利用」

該当する「源泉数」を、内数で記載すること。

(イ) 「温度別」の区分において上段の「利用源泉数」の記載にあたっては、「浴・飲用にも利用」されている「源泉数」を、内数としてカッコ書で併記すること。

エ 「ゆう出量」

様式2に順じて記載するほか、次の点に注意すること。

(ア) 他目的と浴用・飲用に併用されている場合は、ゆう出量をそれぞれに区分して記載することとし、当該ゆう出路のゆう出量について、様式2との整合性に注意すること。

※ (他目的利用量) = (ゆう出量) - (浴用・飲用利用量)

(イ) 循環ろ過方式等を用いるなど、ゆう出量を浴用・飲用利用分と多目的利用分に区分できない場合は、「他目的に利用」は、「0ℓ/分」として記載すること。

オ 「主たる泉質名」及び「公園内にある温泉地」

様式2に準じて記載すること。

4 温泉利用状況報告書（施設区分別）

本報告書（様式4）は、次のことに注意して記載すること。

(1) 「利用許可件数（B）」

前年度に報告された利用許可件数に「本年度許可件数（C）」を加えた数から「本年度廃止件数（D）」を控除した数となること。

※ 利用許可件数（B） = (前年度利用許可件数) + (本年度許可件数（C）) - (本年度廃止件数（D）)

(2) 「許可対象施設」及び「許可対象外施設」

それぞれ、様式2、様式3との整合性に注意すること。特に「宿泊施設」及び「公衆浴場」の利用施設数の記載に当たっては、様式2との整合性に注意すること。

- (3) 「その他 ((キ) 及び (ソ))」
施設の形態を具体的に記載すること。
- (4) 「温泉地名」
「宿泊施設」及び「公衆浴場」を除く各施設区分ごとに、利用施設のある温泉地名を記載すること。
- (5) 「備考」
利用施設の名称又は利用方法等、参考となる事項がある場合は、簡潔に記載すること。

第3 温泉採取者等不明ゆう出路一覧表

本表（様式5）は、温泉採取者への連絡先が不明な場合又は長期間に渡る放置等により所在地が不明になった場合に、次のことに注意して温泉採取者等を特定するための調査を実施し、作成すること。

- 1 「不明の区分」
確認された現状に基づき、該当する項目を○で囲むこと。
- 2 「現在の状況」
該当する項目を○で囲むこと。
- 3 「許可年月日及び番号又は報告年月日」
該当する項目を○で囲み、必要事項を記載すること。
- 4 「現在の温泉採取者」
温泉採取者が変更になっている場合、その変更年月日を記載すること。
- 5 「不明となった理由及び時期」
これまでの経緯、確認された現状、不明となった時期等を簡潔に記載すること。